

## 平成 30 年度 学校法人八紘学園 北海道農業専門学校 学校関係者評価

評価基準項目の判定記号は、右表のとおりとする。

記号	判定基準の内容
A	適切に実施している
B	一部実施していない、もしくはやや不適切
C	実施していない、もしくは不適切

本校では、中項目の評価を「A」とするには、該当する小項目のすべてが「A」評価となった場合としている。

本年度の中項目の評価は前年度と同様なものが多いが、小項目は職員の努力を反映して「A評価割合」が年々増加傾向にあり、その評価の維持に努めている。

### 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

中項目	小項目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
理念・目的・育成人材像	理念・目的・育成人材像は、定められているか	B	B	B
	育成人材像は専門分野の関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	A: 50%	A: 50%	A: 50%
	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	B: 50%	B: 50%	B: 50%
	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	C: 0%	C: 0%	C: 0%

#### 【 現状の取組状況 】

教育基本計画を定め、理念を学校案内や募集要項などに明記している。各年度の「学習案内」を学生と保護者に配布し、内容の周知を図っている。

教育課程と授業計画は、関連業界等との連携協定に基づき協力を得て作成している。

#### 【 課題 】

時代に即して伝統の取り組みは、就職先のニーズ把握の組織および AI、ICT などの充実に向けた、設備や環境が不十分である。

今後も、卒業生に就職先から求められる知識や、技能及び人材として具備されているべき要件がどのようなものか聞き取りの強化に努める。

#### 【 今後の改善方向 】

基本的技能の達成水準に関する調査の実施と、それに対応した教育内容の充実に向けた環境整備を急ぐとともに、学生支援内容の充実と強化に努める。

### 基準 2 学校運営

中項目	小項目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
運営方針	理念等に沿った運営方針を定めているか	B	B	B
事業計画	理念等を達成するための事業計画を定めているか			
運営組織	設置法人は組織運営を適切に行っているか	A: 71%	A: 71%	A: 86%
	学校運営のための組織を整備しているか			
人事・給与と制度	人事給与に関する制度を整備しているか	B: 29%	B: 29%	B: 14%
意思決定システム	意思決定システムを整備しているか	C: 0%	C: 0%	C: 0%
情報システム	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか			

【 現状の取組状況 】

教育及び農場の運営方針は、理念に沿った内容で明文化して行動計画を定めている。

組織運営は、単年度の事業計画に予算編成や事業目標等を明示して業務分担等を明らかにしている。事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しを定期的実施するとともに、理事会および評議員会は、寄附行為に基づき適切に運営をしている。

【 課題 】

教育計画の見直し修正、教職員の資質向上を図る研修体制の強化と実施が急がれる。

【 今後の改善方向 】

単年度の教育計画に対する評価を実施し、実習体制の修正や見直しをおこなう。

長期的視野に立った教育方針の立案について、ワーキンググループ(以降WGとする)での検討を加速させる。

基準3 教育活動

中 項 目	小 項 目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
目標の設定	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	B	B	B
	学科毎に修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか			
教育方法・評価等	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	A:77%	A:62%	A:54%
	教育課程について外部の意見を反映しているか			
	キャリア教育を実施しているか			
	授業評価を実施しているか			
成績評価・単位認定等	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	C:0%	C:0%	C:0%
	作品および技術等の発表における成果を把握しているか			
資格・免許の取得の指導体制	目標とする資格・免許は、教育課程上で明確に位置付けているか			
	資格・免許取得の指導体制はあるか			
教員・教員組織	資格・要件を備えた教員を確保しているか			
	教員の資質向上への取組を行っているか			
	教員の組織体制を整備しているか			

【 現状の取組状況 】

教育課程編成委員会を組織してカリキュラムの作成やシラバスの検討などを行い、その結果を教職員へ周知している。

学生に対して生産実習における疑問点を明確にすることで、冬期間の講義を知識習得の場として体系的な学習となる様に科目の見直しを実施している。

学生へ「授業評価アンケート」を実施し、学習結果の共有化と授業改善を図っている。

【 課題 】

就職先企業などから実技に対する評価は高いが、時代に即した新たな情報に基づく知識習得や授業強化が必要である。

【 今後の改善方向 】

職員による研修への参加回数は増加し、充実に向け関連業界との意見交換会の実施や、経験年数に応じた研修計画の作成を急ぐ。現地ゼミナールの充実で、生産実習と関連を持たせる。

## 基準4 学修成果

中項目	小項目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
就職率	就職率の向上が図られているか	A	A	B
資格・免許の取得率	資格・免許取得率の向上が図られているか	A:100%	A:100%	A:67%
卒業生の社会的評価	卒業生の社会的評価を把握しているか	B: 0% C: 0%	B:0% C: 0%	B:33% C: 0%

### 【 現状の取組状況 】

学校は、学生の就職活動をほぼ把握し、ほぼ全員が農業関連企業等への就職や農業系学校に進学し、その動向データは適切に保管管理している。

資格取得に向け、学内で作業関連資格の取得が可能となるよう環境整備に努めている。さらに、国家試験に関しても家畜人工授精師資格や毒物劇物取扱者などの特別講座を開講している。

### 【 課題 】

卒業後の就職範囲が全国に広がり、組織的に就職先を全て訪問することは困難だが、継続的に就職後の定着率など実態把握に務める。

### 【 今後の改善方向 】

インターンシップなどの就職体験を積極的に奨励し、企業との連携を体系的に強化する。卒業後3年をめどにアンケート調査の実施などにより、学習支援や進路指導の適切性を確認する。

## 基準5 学生支援

中項目	小項目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
就職等進路	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか			
中途退学者への対応	退学率の低減が図られているか	B	B	B
学生相談	学生相談に対する体制を整備しているか			
	留学生に対する相談体制を整備しているか	A:83%	A:75%	A:42%
学生生活	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	B:17%	B:17%	B:50%
	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	C: 0%	C: 8%	C: 8%
	学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか			
	課外活動に対する支援体制を整備しているか			
保護者との連携	保護者との連携体制を構築しているか			
卒業生・社会人	卒業生への支援体制を整備しているか			
	産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか			
	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか			

### 【 現状の取組状況 】

学生数数の減少が顕著となっており、各科の担任教員が能力や適性に応じた進路指導の充実に向けた対応に努めている。

学校独自の奨学金制度はないが、学費の分割納付制度を実施している。学生や保護者に対して経済的支援制度の利用として、農業人材育成投資金や学生支援機構奨学金などの情報の提供と申請及び事務処理への支援をしている。

健康診断と職員を常駐させた寮生活で、日々の体調観察を行い生活指導や健康面などの管理体制は明確にしている。また、保護者との緊急連絡体制の確保と適切な運用をしている。

学生を寮祭、収穫祭及びスポーツ大会など学校行事の運営等に積極的に企画・参画させ、企画力の向上や運営経験の習得に努めている

同窓会は組織されており、事務局は学内にある。

### 【 課 題 】

近年、求人数の増加に伴い、学生の就職先を早期に決定したいといった意欲が低下している。学生寮の水回りなどの改善要求が出され、WGの検討とその対応準備をしている。

学校医の委託は無いが、近郊の病院との連携は充分に取れている。また、学校カウンセラーを設置しているが利用に年次差が大きい。

実習時間が長いことから、時間外となるクラブ活動は低調である。

### 【 今後の改善方向 】

教職員から学生に対し、目的意識を高く持つ進路指導を強化する必要がある。

クラブ活動の一部は、実習の中に組み込むことを検討すべき状態にある。

## 基準6 教育環境

中 項 目	小 項 目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
施設・設備等	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育機具等を整備しているか	B	B	B
学外実習、インターンシップ	学外実習、インターンシップ、海外研修などの実施体制を整備しているか	A:75%	A:50%	A:25%
防災・安全管理	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	B:25%	B:50%	B:75%
	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	C:0%	C:0%	C:0%

### 【 現状の取組状況 】

校舎や実習施設・設備および機器類等は、十分な広さの確保と数量の準備で対応しているが、老朽化や経年劣化等が目立つ。

図書室や実習室なども、老朽化している備品が多くな計画な更新を検討している。実験用の薬品チェックは定期的に行うとともに、安全管理責任者を指定して明確に管理している。

インターンシップは、その実施意義や教育課程上の位置づけを明確にし、1年生からの参加を推奨している。

### 【 課 題 】

施設設備の老朽化と経年劣化に伴い耐震能力に不安のある施設も出始めているため、新規導入や更新計画の作成が必要である。

インターンシップが希望制のため、参加者の年次変動や片寄りがある。

【 今後の改善方向 】

施設設備の導入および更新は、北海道農業専門学校整備 5 カ年計画において順位付けを明確にして検討する。

インターンシップの説明強化と、内容充実のための検討を継続して実施して行く。

基準 7 学生の募集と受入れ

中項目	小項目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
学生募集活動	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいる	A	A	A
	学生募集を適切、かつ、効果的に行っている			
入学選考	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	A:100%	A:100%	A:100%
	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか			
学納金	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	B:0%	B:0%	B:0%
	入学辞退者に対し、授業料等について適切な取り扱いを意を行っているか			

【 現状の取組状況 】

過年度に入学者を輩出した高校や就職先の農業法人等への訪問を行い、入学者希望者の確保を実施している。

願書受付日や入学試験日は、北海道専修学校各種学校連合会の示した自主規制に即して設定している。学校案内は、正確な情報で紹介するため毎年更新し、年3回のオープンキャンパスと随時学校見学の問い合わせに対応と実施をしている。

【 課題 】

入学希望者の進級希望学科の把握に努め、それに対応した教育内容の充実が必要。

受験者に希望の専攻コースごとの人数に年変動が大きいと、均一化させる方法の検討と、卒業後の進路を見据えた指導方法の充実が必要である。

【 今後の改善方向 】

2年次の、専攻学生数に見合ったフレキシブルな職員配置と、実習農場の生産計画を立てる。さらに教育基本計画など、時代に即した修正の検討を継続して実施する。

基準 8 財務

中項目	小項目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
財務基盤	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	A	B	B
	学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか			
予算・収支計画	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中長期計画を策定しているか	A:100%	A:67%	A:67%
	予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか			
監査	私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	B:0%	B:33%	B:33%
財務情報の公開	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	C:0%	C:0%	C:0%

【 現状の取組状況 】

応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握して、収入計画に反映させている。また、貸借対照表の翌年度繰越収入超過額はプラスで、負債は返還可能の範囲で妥当である。

設備投資は、予算の範囲内で計画的な更新を計画している。5年間の短期改善計画を推進することで、日本私学事業団の学校法人経営分析指針に添った学園経営状況を適切に行っている。

私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に会計処理をしており、財務諸表や事業報告書を作りホームページ上で公開をしている。

【 課題 】

応募者数の減少に対応した改善への取り組みがさらに必要で、更なる経営の安定化に向けた対策に努める。

職員の中・高齢化に伴い、人件費支出の比率が増加傾向にある。

【 今後の改善方向 】

各担当部署コストの管理を統一化させた、新たな運営方針の作成をWGの検討をとおして作成を図る。

基準9 法令等の順守

中項目	小項目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
関係法令、設置基準等の遵守	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適切な学校運営を行っているか	B	B	B
個人情報保護	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施している			
学校評価	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	A:71%	A:57%	A:57%
	自己評価結果を公表しているか			
	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか			
	学校関係者評価結果を公表しているか			
教育情報の公開	教育情報に関する情報公開を積極的に行っている	C: 0%	C: 0%	C: 0%

【 現状の取組状況 】

施設設備は設置基準に適合し、諸届、寄附行為、学則、庶務規程等に加え、教務規程等の必要な諸規定の整備は適宜行っている。

学校の開設したサイトの運営をはじめ、所有コンピューターの管理情報の漏洩には適切な防止策を講じている。自己評価報告書を取りまとめ、HPで教育内容などについて積極的に公開している。学校案内を毎年新たに作成し学生、保護者、卒業生及び関係の高校や企業にも広く配布している。

【 課題 】

女子生徒の応募の増加に伴い、セクシャルハラスメント等の対応マニュアルの作成と研修会の開催で周知徹底を図る。個人情報保護規定の運営では、管理規定などの随時更新が行う。職員内で、自己評価報告書取りまとめ結果を組織的に業務改善に役立てる必要がある。

【 今後の改善方向 】

個人情報保護規定や学内の電磁記録の取り扱い規定など、早急に整備運用が必要である。  
ハラスメント研修を年複数回開催し、職員の意識向上を図っていく必要がある。

基準 10 社会貢献・地域貢献

中 項 目	小 項 目	中項目評価(小項目評価%)		
		H30	H29	H28
社会貢献・ 地域貢献	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	B	B	B
	国際交流に取り組んでいるか	A:67%	A:67%	A:33%
ボランティ ア活動	学生のボランティア活動を推奨し、具体的な活動支援を行っているか	B:33%	B:33%	B:67%
		C:0%	C:0%	C:0%

【 現状の取組状況 】

学校で実施する家畜人工授精師講習会を連携機関への開放や、高等学校等が行うキャリア教育へ教員の派遣協力をしている。さらに、廃食油の回収とバイオディーゼル燃料への転換で環境問題貢献に努めている。JICA から、海外研修生を対象とした研修を引き受け、視野を広げる指導に努めている。

【 課 題 】

高校からの出前授業の依頼が多く寄せられる時期が農繁期と重なり、適任職員の派遣や参加回数の増加に対応しきれないことが発生している。

毎年、河川清掃や学校周辺のごみ拾い、グラウンドおよび校舎開放などは実施しているが、地域と直接連携した活動は少ない。

【 今後の改善方向 】

社会貢献や地域貢献のため、学校施設の開放は申請に応じ継続して協力する。  
地域への積極的な交流や、学校からの働きかけられる事項などについて検討する。

## 平成30年度重点目標達成についての自己評価

### 平成30年度重点目標

- 1) 学園財政の黒字化
- 2) 入学者数の定員充足
- 3) 農場各科生産目標の達成
- 4) 100%の就農・就職率
- 5) 学生の資格取得促進

### 達成状況

- 1) 学園財政の黒字化は、維持されている。
- 2) 入学者数の定員充足は、入学者は18名と定員35名を下回った
- 3) 各科個別に増減はあるが、農場部全体では生産目標を下回る結果となった。
- 4) 就農・就職率は、目標100%を達成できた。  
(卒業生30名中、宅就農6名、職者21名、海外研修・研修職員2名、地域おこし協力隊1名)
- 5) 資格講習会などの受講率と、資格取得者数の維持が図られていた。

### 今後の課題

- 1) 継続的な、学園財政の安定化の維持向上を図る。
- 2) 入学者数の定員充足は、入学試験受験者におけるオープンキャンパス参加者の割合が高いので該当する高校への訪問を積極的に行い、今年以上の情報発信を行っていく。
- 3) 農場各科の生産目標達成は、本年度は学生数減少や天候変動が大きかったため平年を下回る生産結果となった。しかし、学生へ過度な負担を掛けることなく生産実習を終えることができた。
- 4) 就農・就職率100%の達成と早期離職を防止する観点から、積極的にインターンシップや体験実習などへの参加者数をうながし、新たな進路開拓につなげていく。
- 5) 資格取得率の向上に向け、研修奨励金制度の活用を勧めていく。